

彼を知り己を知れば…



取得した資格：1級土木施工管理技士
資格取得年度：令和2年度

しば た ひろ し
柴 田 広 志*

1. 受験の動機・経緯

県に入庁して工事の監督員として業務に携わる中で、施工業者の担当技術者の多くが1級土木施工管理技士の資格を取得していることに気づきました。自分よりも現場経験の豊富な施工業者を監督する上で、少しでも自信を持った判断をしたいと日頃から感じていたため、資格を取得するならまずはこの資格からと漠然と考えていました。しかし、毎年度初めにそんなことを考えては、受験申込時期には忘れていたの繰り返しでした。そうして数年が過ぎた頃、上司から資格取得の勧めがあり同僚数名に便乗する形で受験申込みに至りました。

2. 学科試験における留意点や学習のポイント

「彼を知り己を知れば百戦殆うからず。」

昔の中国の武将である孫子の言葉として有名ですが、本試験においてもこの言葉は役立つと思います。

まずは「彼を知る」ですが、本試験の特徴として、下記の4点が挙げられます。

- ①例年、過去の出題傾向に大きな変化はない
- ②幅広い分野で出題されるが、出題頻度が高い分野、低い分野がある
- ③選択問題、必須問題がある
- ④合格ラインは正答率6割以上

この特徴から「過去問題の傾向を分析し要点がまとめられている」+「過去問題の解説が充実している」参考書を繰り返し学習することが有効です。

続いて、「己を知る」ですが、学生時代の専攻、仕事で従事した業務等により、各々得意な分野、苦手な分野があるかと思います。まずは参考書に一通り目を通して得意な分野、苦手な分野を把握しましょう。

上記を踏まえ、参考書を使った私なりの勉強の進め方ですが、特に短期間で効率的に合格を目指したいという方には参考になるかと思います。まずは、自分が得意かつ出題頻度の高い分野を集中的に勉強するのが合格への第1歩です。確実な得点源になりますし、勉強のきっかけでやる気を失うのを防ぐことができます。続いて、必須問題を確実に抑えて得点源とします。残った分野は出題頻度が高いものを優先して得点を積み上げます（場合によっては出題頻度が低く、苦手な分野は捨てても良いと思います）。一通りの分野を理解できたら、あとは過去問をひたすら解いて、コンスタントに7割以上得点できるよう頑張りましょう。その際に、間違えた問題はチェックしておき試験直前に復習できるようにしておけばなお良いと思います。

*兵庫県 阪神北県民局 宝塚土木事務所 三田業務所 主任

3. 実地試験における留意点や学習のポイント

実地試験は、「選択問題」と「経験記述問題」があります。「選択問題」は学科試験で勉強した内容を深く理解しているか問われます。具体には、学科試験では4肢択一形式に対し、実地試験では解答を記述する形式であり、難易度は上がりますが、学科試験と同様の学習方法で十分かと思います。

「経験記述問題」は、これまで経験した土木工事の現場において、決められたテーマ（例えば品質管理）に関する技術的課題、課題解決のために検討した内容、実施した対応処置を記述する問題です。過去問題の傾向からテーマは3つ程度に絞ることができます。あらかじめ解答を準備できる問題ですので、手間はかかりますがそれぞれのテーマ別で解答を用意しておくことが重要です。この際のポイントは、1つの工事でできるだけ複数のテーマに対する解答を準備しておくことです。理由は「工事の概要（工事箇所、工期、主な工種等）」を記述する必要があり、工事数が多いとそれだけ覚えることが増えてしまうからです。受験まで時間がある方は、日頃から担当している現場において、出題テーマを意識した課題や解決方法を整理しておく、準備が楽になります。

4. 資格取得後

資格はあくまで資格なので、取得後に劇的に何かが変わるということはありません。子供に少し褒められたくらいでしょうか。しかし、合格という成功体験を積むことができたのは、少なからず自信につながっています。私の場合は社会人となって初めての資格受験であったので、これを機に他の資格にも挑戦しようかなという気持ちも芽生えました。相変わらず現場では悩ましいことが多いですが、資格勉強のときに見た覚えがあるなということもちらほら出てきており、わかりやすくまとめられている参考書が役立つこともあります。

5. 受験者へのアドバイス、注意点、励まし等

勉強方法に関して偉そうに語りましたが、だいたい参考書に記載されている内容ですので、いきなり過去問題を解くのではなく、まずは「彼と己を知る」ことに留意いただきながら参考書に取り組んでいただければ合格にグッと近づくとと思います。

私の場合、コロナ禍での受験となりましたが、「在宅時間の増加」「試験日の延期」等、勉強時間の確保に関してはプラスに働きました。にも関わらず、なかなか集中して勉強に取り組めず、何度も諦めようかと頭によぎりましたが、職場で受験することを公表していたことが最後の砦となり、なんとか合格までたどり着けました。私の意思は思っているよりずっと弱いと痛感するとともに、諦めにくい状況をあえて作っておくことがやる気を維持するうえで重要だと感じました。勉強を続ける自信がない方は、是非周りの方に公表して自分にプレッシャーをかけましょう。さらに同僚、友人等と一緒に受験すると、お互い「負けたくない」という気持ちが働いて、より効果があると思います。

6. おわりに

公務員の立場で資格を取得しても、給与や携われる仕事が増える等といった目に見えるリターンがあるわけではありません。とはいえ、今後の技術者や自分自身の仕事のあり方に漠然とした不安を感じていて、何をしたいかわからないという方はまず本資格を受験してみたいかがでしょうか。

最後になりますが、良いタイミングで受験を勧めていただいた上司、共に受験した同僚に感謝を申し上げますとともに、本文がこれから受験をされる方々の参考になれば幸いです。

【著者紹介】 柴田 広志（しばた ひろし）

平成24年兵庫県入庁（総合土木職）。豊岡土木事務所で橋梁補修や歩道整備事業を担当、県土整備部土木局道路保全課で橋梁耐震補強や道路除雪などの職務を経て現職。